

新疆ウイグル自治区における「イスラーム復興」 および宗教統制の構造と近年の新たな展開について

中屋 昌子

イスラーム世界においては、近年、イスラーム復興現象が著しく観察されるが、中国新疆ウイグル自治区(以下、新疆)においても、同様に著しいイスラーム復興が進んでいる。それは、断食明けの礼拝やイフタルなどの光景によっても確認可能であるほか、メッカ巡礼者数の増加など幾つかのデータによっても確認可能である。しかし、新疆の場合は、国の宗教政策の根っこを共産党の宗教理論が縛っているがゆえに、その表れ方は特異なものである。本報告では、社会主義体制下のイスラーム復興と宗教統制の構造的特質を明らかにするとともに、「ワッハブ」の流入とその管理・統制の強化に代表される最近の現地の動向について分析する。

新疆におけるイスラーム復興は特異である。イスラーム信仰の根幹である「五行」をみただけでも、例えば「信仰告白」は、学校教育期間中は無宗教が求められるために制限され、「礼拝」は政府批准のモスクなどの「宗教活動場所」か自宅に限定され、説教は官製の「ネタ本」を用いることが求められる。「喜捨」はザカートが宗教「税」とみなされて禁止であり、サダカはモスクに限定される。「断食」は、モスクや自宅に限定され、断食期間中に学校や職場で食事や水の提供が行われる場合もある。「メッカ巡礼」は、中国イスラーム教協会主催の公認ツアーに限定され、個人巡礼は2004年の「宗教事務条例」の制定により禁止されている。巡礼先で配布を受けた印刷物は責任者に渡さなければならず、外国人との接触も制限される。さらに2009年の7・5ウラムチ事件以降は、女性信徒の管理が強化され、女性宗教指導者ブウィの管理、ヒジャーブ着用の規制が強化され、女性の脱宗教化が進められている。宗教書籍も自治区登録の書店でのみ販売が許可されている。

こうした復興と統制の交錯状況は、文化大革命終結後の宗教復興と、1980年代後半から急速に進んだ「イスラーム復興」に対応するために制定された法令によってもたらされたものである。容認と統制の思考は中国共産党(以下、共産党)の宗教理論に裏付けられた宗教政策の綱領的文書「我が国の社会主義期における宗教問題に関する基本的観点と基本政策」に集約されている。すなわち、共産党の宗教理論では、原理的には革命によって階級社会が

消滅すれば自然と宗教は存在基盤を失い消滅すると考えられるが、人間の意識変革にはタイムラグがあることから短期的な消滅は期待し得ず（「長期性」）、また、宗教は「民族性」、「国際性」、「集団性」を帯びる「複雑性」があるため、当面は宗教を容認すべきであるとし、信仰の自由を保障している。しかし、宗教が容認されるのは宗教が消滅するまでの間であって長期的な観点から、その消滅に向けて、「空間」と「時間」の双方から脱宗教化を図るべきとされている。イスラームは世界宗教であるから、国境を越えた連帯が容易に成立しやすく、外国との遮断管理が志向される。宗教規範の共有やウンマの思想などは、共産党が最も嫌う対抗勢力化の可能性を秘めるものであるから、その活動を空間的に限定し、かつ、空間内を体制化し、空間外は脱宗教化して封じ込めるのである。

ただ、管理される側のウイグル人もさまざまな回避方法を考案している。例えば、第三国で巡礼ビザを取得することによって公認ツアーへの参加を回避したり、官製説教を避けるため、あえてモスクには行かないという抵抗が行われている。宗教書籍の闇流通や、地下宗教学校も存在している。ただ、それは限定的であり、ウイグル社会は依然として閉塞感に包まれている。

このようなイスラーム復興と統制が交錯する閉塞感漂うウイグル社会に、近年、「ワッハーブ」主義の台頭という新たな動向が明確に観察されるようになった。新疆では、「ワッハーブ」は極端で過激なイスラーム主義者や武装テロ組織に対する総称として使用されている。ワッハーブ主義への接触方法は、地下宗教学校や電子媒体などである。なかにはトルコを経由し、シリアなどの前線に向かい、ジハードの目的を達成しようとする人たちもいる。共産党は、これに対抗して反「ワッハーブ」主義の学習会開催に追われるようになった。学習会では、「非法宗教 10 種の極端な表現」、「さらに法令によって非法宗教活動を取締り、宗教極端思想が浸透することを阻止する工作についての若干の指導意見」などの官製資料が使用されている。「ワッハーブ」主義の台頭は 2009 年 7・5 ウルムチ事件前後に顕在化し、2013 年からより顕著になった。

以上のとおり、中国共産党は、信仰を許容しつつも、イスラームの世界宗教性、社会性を恐れ、対抗勢力化を常に警戒してきた。宗教施設を限定し、宗教活動を封じ込めるとともに海外からの影響力も遮断し、施設内では体制化を進める一方で、施設外では脱宗教化を進めてきた。女性信徒の管理強化も進めた。その一方で、人々は現行の管理と統制に反発し、さまざまな方法で回避しようと試みる。近年では、「ワッハーブ」の台頭という現象にも直面しこれに対抗して共産党はイスラームの管理・統制をさらに強化しているが、もはや泥沼の様相を呈している。

(同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科博士後期課程)